

独立行政法人農業生物資源研究所・農業環境技術研究所 共催  
公開シンポジウム ポストゲノム時代の害虫防除研究のあり方—第2回—

# 次世代農薬への挑戦

—抵抗性機構の解明と環境調和型殺虫剤の開発—

参加無料

平成21年 **7月24日** (金)

秋葉原コンベンションホール 5B

千代田区外神田 1-18-13 秋葉原ダイビル 5F 秋葉原駅徒歩 1 分

シンポジウム 9:50 - 17:20

カイコゲノム研究の現状と害虫防除研究への展望  
農業生物資源研究所 山本 公子

ポストゲノム時代のアブラムシ防除研究—抵抗性の発達を追い越せるのか—  
農業環境技術研究所 鈴木 健

アジア地域イネウンカ類の殺虫剤抵抗性の現状と今後の課題  
農研機構・九州沖縄農業研究センター 松村 正哉

カイコゲノム情報を利用した BT 剤抵抗性メカニズムの解明と対抗技術開発の可能性  
農業生物資源研究所 宮本 和久

リアノジン受容体をターゲットとする新たな殺虫剤の開発  
日本農業総合研究所 正木 隆男

神経作用性制御剤のターゲット：ゲノム情報、多様化および調節  
近畿大学農学部 松田 一彦

RNAi を利用した非モデル昆虫での新規害虫制御ターゲットの探索  
名古屋大学大学院生命農学研究科 三浦 健

昆虫ホルモン作用メカニズムの解明と IGR 開発への利用  
農業生物資源研究所 篠田 徹郎

総合討論

交流会 18:00 - 20:00  
(参加費 4,500 円)

参加申し込み・問い合わせ  
参加をご希望の方は、氏名・所属・  
役職・連絡先住所・電話番号・E-mail・  
交流会参加の有無、を明記の上  
7月17日(金)までに事務局にE-mail  
またはFAXでお申し込みください